

校長室だより



すきです 白峰

スローガン

平成 27 年 9 月 2 日 No.14

白山市立白峰小学校

A評価判定項目

「すきです 白峰, 学び合い, 高め合い, 世界に発信」

白山市立白峰小学校 平成27年度 前期学校評価の結果分析と方策

A評価項目	具体的方策	実現状況の達成基準	7月の達成度	判定	分析	今後の方策
楽しい学校	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学校教育活動を通じて、自己肯定感、自己有用感を高めるため、「ほめて、認めて、励ます」対応を徹底する。 いじめ調査や欠席・遅刻状況を基に子に寄り添い、早期解決を図る。 	学校に行くのが楽しいと感じている児童・保護者、工夫している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 66.7% A+B 96.7% 保護者アンケート A 60.0% A+B 96.7% 教員自己評価 A 0.0% A+B 100%	A	・昨年度に比べ「学校は楽しい」と感じている児童、保護者共に高い数値となった。	・引き続き全教育活動を通じて自己肯定感を高める「ほめて認めて励ます」対応を徹底する。 ・学校全体で自己有用感を感じられる「ほめられる」経験を増やしていく。
楽しい学校に大幅改善	・「地域の先生一覧表」の活用を全学年で進めるため、教務主任が毎月状況を把握し呼びかけていく。	ふるさと教材への取り組みに熱心に取り組んでいると答えた児童・保護者、指導を工夫している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 63.3% A+B 96.7% 保護者アンケート A 56.7% A+B 96.7% 教員自己評価 A 28.6% A+B 100%	A	・1学期の行事、総合的な学習の時間、生活科等で地域の多くのゲストティーチャーを招聘した。 ・体験を伴う活動で、児童の満足感や自己肯定感を高めることにつながっている。	・運動会での全校「いそぶし」の取り組みや文化祭への参加、ドリームフェスティバルでの全校「かんこおどり」の伝承活動を計画的に進める。
地域の教育力に感謝	・児童の実態に合わせ、個別指導を実施する。	毎日朝食をとっていると答えた保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケート A 76.7% A+B 93.3%	A	・昨年に比べ「毎日朝食をとっている」児童の割合が減少し、食べてこない児童の固定化が見られる。 ・給食では、偏食が見られ、給食時間内に食べ終わることができない児童がいる。	・朝食の栄養バランスや摂取環境を調査する。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の必要性と保護者が栄養バランスを考えて朝食を準備するように、給食日より保健日より継続して情報を発信していく。 ・朝食をとっていない児童と家庭に個別対応する。
学校の情報発信	学校だより、校長室だより、学年だより等で、地域と連携した学校行事や育友会活動などの様子を伝える。学校だより、校長室だよりは全戸配布する。	学校が学校活動を場やいろいろな場面で伝える努力をしていると答えた保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケート A 63.3% A+B 96.7%	A	・校長室だより、学校だよりを全戸配布し、保護者・地域へのきめ細かな情報発信を行ってきたため、A+Bは高い数値となった。	・引き続き、校長室だより、学校だより等で、子どもたちの活躍の様子を保護者・地域にきめ細かに発信する。
学校の対応	学級懇談会や連絡帳を通して、子どものことに関する情報を収集したり、学校側から働きかけて、保護者に学校まで来てもらい、情報交換を実施する。	学校が子どもの相談に適切に応じてくれると答えた保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケート A 50.0% A+B 93.3%	A	・連絡帳での丁寧な対応、保護者来校時の丁寧な対応、育友会総会等での学校の経営方針の詳しい説明などにより、学校への信頼度は高い。	・今後も保護者からの相談に対しては、よく話を聞いて丁寧な対応を心がける。

一学期末の学校評価アンケートにご協力ありがとうございました。本年度前期学校評価等の結果と分析、その対応策をご報告いたします。今後の授業参観やスクールルフォーラム等に限らず、いつでも忌憚のないご意見を伺えれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

「見える学校」「信頼される学校」の推進

「きめ細かな対応」、安全・安心の拡充

ホームページではカラーでご覧になれます。いつでも何なりとお問い合わせください。
 〒920-2501 石川県白山市白峰ニ 110 番地
 TEL(076)259-2009 FAX(076)259-2188
 E-mail shiramine-e02@sc.city.hakusan.ishikawa.jp

C-D評価判定項目

白山市立白峰小学校 平成27年度 前期学校評価の結果分析と方策

C-D評価項目	具体的方策	実現状況の達成基準	7月の達成度	判定	分析	今後の方策
基礎基本の繰り返し練習(漢字・計算)	・朝学習や家庭学習の時間を活用し、基礎基本の繰り返し練習を徹底する。	学期末テスト90点以上の児童・指導している教職員・確認している保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 26.7% A+B 76.7% 保護者アンケート A 20.0% A+B 63.3% 教員自己評価 A 14.3% A+B 85.7%	C	・児童、保護者ともに基礎基本の繰り返し練習が十分ではないと考えている。	・朝学習では木曜日の漢字の時間、月曜日6限と水曜日の屋にパワーアップタイムを増設し、重点的な指導を行う。習った漢字を必ず使う、間違いは何度も練習して直す習慣づけを徹底する。 ・単元導入前に既習事項の復習をする。
書く力(作文、日記)	・低学年では、毎日の一行日記を連絡帳に書く活動をする。 ・高学年では、各教科の振り返りを毎時間書く。	感じたことや思ったことを書くことができたと答えた児童・保護者、工夫している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 33.3% A+B 70.0% 保護者アンケート A 13.3% A+B 30.0% 教員自己評価 A 14.3% A+B 100%	C	・自分の思いを普段から作文や日記に書くことができているという評価が低く、意欲的に書く指導が徹底していない。	・「書くことプリント」を活用するとともに、教科書巻末の語彙表などの活用でし、気持ちや接続詞による語彙力を高める。 ・毎日の一行日記と授業での振り返りを習慣づける。 ・理由や方法を短い文で書くことに慣れさせる。
説明する力(文や図で)	・自分の考えをノートに書く際、文や図を使うよう指導する。	文や図を用いてまとめたり説明できたと答えた児童、工夫している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 36.7% A+B 80.0% 教員自己評価 A 0.0% A+B 62.5%	C	・文や図を使って説明しよう意識している児童は多いが、構成を意識してまとめる力は十分に育っていない。	・自分の考えをノートにまとめる時間を確保する。 ・ペア活動や全体で、文や図を使って説明する時間を設ける。 ・ホワイトボードの活用を授業に位置づける。 ・児童のよいノートをお手本として示し、全校に広める。
生活規律(あいさつ、返事)	・あいさつについては、今後も新しい取り組みを考えながら継続して取り組む。 ・返事については、特に授業中において意識して取り組む。	あいさつや返事ができると答えた児童・保護者、教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 56.7% A+B 96.7% 保護者アンケート A 33.3% A+B 63.3% 教員自己評価 A 0.0% A+B 33.3%	D	・児童の自己評価は高いが、保護者や教職員は不十分であると評価している。 ・自主的にあいさつをする習慣やあいさつの必要性を感じていないように思われる。	・全校集会でよいあいさつの姿を示し、なぜ必要であるかを考えさせるとともに、教職員が率先したあいさつ運動を継続する。 ・児童会なかま委員会のあいさつ運動を、児童の主体的活動となるように運営する。 ・グッドマナーキャンペーンを通じて保護者共々あいさつ運動のよさを実感する機会を持つ。
自己肯定感	・全ての学校教育活動を通じて、自己肯定感、自己有用感を高めるため、「ほめて、認めて、励ます」対応を徹底する。	自分や友だち、学級の「いいところや、がんばっているところ」が言えることと答えた児童・保護者、工夫している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 36.7% A+B 73.3% 保護者アンケート A 26.7% A+B 60.0% 教員自己評価 A 12.5% A+B 88.9%	C	・教職員の評価に比べ、児童や保護者の評価がやや低い。児童をほめて励ますことを益々広げていく必要がある。	・今後も全ての学校教育活動を通じて、「ほめて、認めて、励ます」対応を徹底し、自己肯定感、自己有用感を高めていく。 ・保護者に児童のよい姿を知らせる機会を増やす。(連絡帳・学級通信等)
自主的実践力	・いろいろな取り組みや学校行事の中で、縦割り班を利用したり、役割を持たせたりすることによって子どもたちの自主性や実践力を育てていく。	「学級や学校がよくなるためのこと」を考えたり発言できると答えた児童、工夫している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 23.4% A+B 76.7% 教員自己評価 A 14.3% A+B 42.9%	C	・児童の評価は昨年度より高まっているが、教職員は十分ではないと考えている。	・高学年は、様々な活動の中で責任を持たせる場面を設定する。また、児童会や係活動を通じて、自分で考えて、場に応じた行動ができたことを常に認めて励まし、よい評価が全体に広がるようにする。
思いやりの心で行動	・全ての学校教育活動を通じて、相手のことを考えた言動がみられたら認めてひろめることによって、思いやりの心の育成に努める。 ・いじめ調査や欠席・遅刻状況を基に子に寄り添い、早期解決を図る。	思いやりの心で行動していると答えた児童・保護者、道徳教育を推進している教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート A 50.0% A+B 93.4% 保護者アンケート A 20.0% A+B 80.0% 教員自己評価 A 0.0% A+B 57.1%	C	・児童の評価は高まっているが、教職員には具体的な指導方法や取り組みに迷いが見られ、評価は低い。	・やる気元気の出る言葉の取り組み、よく考える道徳の時間、全校道徳の取り組みを通じて、互いに考え、聴きあうことを大切にして相手の思いやりの心と態度を育む。
家庭学習	・「家庭学習の手引き」を配布し、学習内容の例を示す。 ・10分×学年の時間、家庭学習に取り組みさせる。 ・記録表を活用し、保護者の協力を得よう取り組む。	熱心に家庭学習に取り組んでいると答えた保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケート A 26.7% A+B 56.7%	D	・保護者は家庭学習を十分だと感じていない。 ・児童は質問紙で「宿題以外はない」と答えている子がいる。	・家庭学習週間を月1回設け、自学ノートの提出100%を目指す。 ・よい自学ノートを掲示し、広げ、個々に内容指導を継続する。

本校の課題が明らかになりました。子ども達の自己肯定感、自主的実践力を高めるとともに、自信をもって書く「説明する力」の向上を目指します。また、ご家庭との連携を強化し家庭学習の充実とともに、繰り返し練習による基礎的学習事項を徹底いたします。